

全6品目で出荷量減少 8月確報	2
3DP積層ブロック 前田建設WAB3D	3
創立75周年全国大会を開催 全国コンクリート製品協会	4
全コンの足跡と将来展望 記念座談会	5, 6

週刊ブロック通信

発行所 公共事業通信社 東京都港区新橋6-22-6 JOYOビル7F 電話 03(3431)2811(代)
編集発行人 黒澤隆寿 購読料 1カ年39,000円+税 前納 毎週月曜日発行 FAX 03(3578)3450

全国コンクリート製品協会 創立75周年特集



全コンが創立75周年 新たなビジョン策定へ

全国コンクリート製品協会(会長 石川利勝氏)は18日、創立75周年を記念して「サステナブルな社会へプレキャスト製品と共に」をテーマに掲げ、ANAクラウンプラザホテル広島(広島市中区)で全国大会を開催した。大会には会員社や来賓、招待者など約250名が出席。節目となる75周年を祝い、未来に向けた新たな一歩を踏み出した。

●協会の歩み

全国コンクリート製品協会は1950年、戦後のインフラ整備のためにコンクリート製品の製造と品質管理の基準を確立し、業界全体の技術力を向上させることを目的に、コンクリート製品研究会として発足し、59年に全国コンクリート製品協会に改称。JIS事業の任意団体として活動し、2009年に一般社団法人となった。この間、一貫してわが国の都市化や公共インフラ整備の進展に、製品規格の標準化や技術研究の促進を通じて貢献し続けてきた。

09年に三町令子氏が10代目の会長に就任してからの進境は著しく、「開かれた協会、技術の全コン」の実現に向けて、コンクリート製品検定や創造的リーダー育成のための研修会、国交

省各地方整備局との意見交換会が始まり、国土交通省のコンクリート生産性向上検討協議会にも参画するなど全コンの事業領域は大幅に拡大した。

その流れは、現石川会長になって更に加速。石川会長は「全コンは業界共通の課題を扱う団体としてふさわしい組織体制を持つべき」との思いから、全コンの活動組織を総務・広報・技術統括・人材育成の4つの分野別委員会に再編。それぞれの委員会には各副会長が参画して、委員会事業を掌握することとした。この他にも会員の増強に向けて団体正会員枠を設けた他、外国人技能実習制度に「コンクリート製品製造業種」が追加となったことに伴い、技能実習評価試験を円滑に実施する狙いから、これまでのブロック制を廃止。新たに北海道から沖縄まで全国に10支部を配置する組織変更を実施した。今や外国人技能実習評価試験は、全コンの最も重要な事業のひとつとなり、全コンのプレゼンスを高める原動力

力となっている。

●全国大会

式典では冒頭、物故者に黙とうを捧げた後、大会実行委員長を務めた大月隆行は、表彰式では功労者表彰と

副会長が「75周年記念大会を、プレキャスト製品業界の発展に向けた希望と責任を確認する意義のある大会としたい」と述べて高らかに開会を宣言。主催者を代に挨拶した石川利勝会長は「全国コンクリート製品協会は設立以来75年にわたり、日本のインフラ整備で重要な役割を果たしてきた。当協会は社会の発展に寄与しながら、さまざまな課題を乗り越えて成長を続けてきた。今後は気候変動や自然災害への対応、脱炭素社会の実現に向けて、環境配慮型製品や技術開発にも注力することが求められる。来年には新たなビジョンを発表する計画で、その実現に向けて会員と共に持続可能な未来を切り拓いていきたい」と抱負を述べ、2014年の創立65周年で発表した「全コンビジョン2014」に続く、新たな全コンビジョンを策定することを明らかにした。

●協会のこれから

全国大会で石川会長は、新しいビジョンを策定することを明らかにした。コンクリート製品業界が、需要の減少や人手不足、脱炭素社会への貢献など大きな課題に直面していることを考えると、新ビジョンで持続可能な未来を描くことは非常に重要だ。27年には現行の技能実習制度に代わり、新たに育成就労制度も始まる予定だ。全コンの歴史は業界の歴史といってもよく、その役割は更に重みを増していくに違いない。

建設経済局の平田研局長(同)、広島県の山根健嗣副知事、広島市都市整備局の嶋司博文次長、岡山大学の綾野克紀教授が祝辞を述べた。

創立75周年全国大会を開催



250名が節目祝う

見谷氏らが功労者表彰

全国コンクリート製品協会

全国コンクリート製品協会(会長 石川利勝氏)が創立75周年を迎え18日、ANAクラウンプラザホテル広島(広島市中区)で記念大会を開催した。「サステナブル社会へプレキャスト製品と共に」をテーマに掲げた大会には会員社や来賓、招待者など約250名が出席。節目となる75周年を祝い、未来に向けた新たな一歩を踏み出した。

大会の開催にあたり、主催者を代表して挨拶した石川利勝会長は「当協会は1950年の設立から今日に至るまで75年の長きにわたる。を活かして、環境への負荷を減らし、持続可能な社会づくりに貢献するための新たな技術革新が求められている。」

り、日本のインフラ整備を支える重要な役割を果たしてきた。戦後の復興期から次世代の人材育成も重要なテーマだ。私たちの業界は熟練技術者によって支え

高度経済成長期、そして現在に至るまで、コンクリート製品は道路、河川、下水道、農業、橋梁、港湾、ダム、建築など全ての建築に欠かせない存在となり、社会の発展に貢献してきた。この75年を振り返ると、多くの課題や困難に直面したが、会員をはじめ関係者が、会員をはじめ関係者が10年ビジョンの策定も進め



石川会長

の皆さんの力でそれを乗り越え、ここまで発展を遂げることができた。当協会を支えて下さった全ての方々

に、深く感謝している。

業だ。次回総会時には、皆

ていくことになった。協会

全体の長期的な成長と発展

を見据えるものであり、業

界の未来を形作る重要な事

業だ。次回総会時には、皆

く、それ自身が付加価値だ

川上川下産業との積極的な

対話を通じて、必要な価格

転嫁などを行って、サプラ

イチェーン全体でコンクリ

現在、我々を取り巻く環境は大きく変化しつつある。気候変動や自然災害への対応、また脱炭素社会の

皆さんにこのビジョンを発表できるように鋭意取り組んでいる。会員の皆さんと共給が図られるよう、業界連携をお願いしたい」と述べた。

実現に向けた取り組みは、
業界にとって避けて通れな
り開いて行くことを楽しみ
にしている」と述べた。
祝辞を代読した三道義二企
国土交通省、平田局長の

い課題だ。これまでの知見を活かして、環境への負荷を減らし、持続可能な社会を実現)、国土交通省不動産・興では、コンクリート製品

来賓では経済産業省製造画専門官は、「能登半島地震が起きた被災地の復旧復

理)、国土交通省不動産・興では、コンクリート製品建設経済局の平田研局長を活用した工期短縮や省力化などを通じて、工事の円滑化が進められている。コ副知事、広島市都市整備局

の嶋司博文次長、岡山大学の綾野克紀教授が祝辞を述べた。

ソークリット製品は、街づくりや地域を支える社会資本整備、災害復旧など緊急を

ら敬意を表したい。今や人手不足は全産業的課題だ。また100年に一度の豪雨が、毎年のように日本各地を襲っており、P・Ca製品なしには国土保全は語れない状況だ。

表彰式では功労者表彰として、同協会元理事でミルコンホールディングス社長の見谷英貞氏と、東京都立大学名誉教授の國府勝郎氏に表彰状が贈られた。

また外国人技能実習評価は、4年間で試験監督を延べ30人、集合試験会場を25回提供。試験監督と集合試験会場の両方を提供した会社としては最多の実績とされた。草竹コンクリート

また外国人技能実習評価 になった。草竹コンクリート

今年は正月に能登半島地震が起きた。岡山の小さな教会が地震の後、『たとえ明日、地球が滅びようとも私は今日、林檎の木を植える』というルターの言葉を掲げた。絶望の淵にあつて

試験の実施にあたり、試験監督者の派遣や集合試験会場の提供に協力した企業・団体84者を代表して、ケンチ（富山県）と草竹コンクリート工業（奈良県）の2社に感謝状を授与した。

工業は、4年間で試験監督を延べ32名、集合試験会場を6回提供すると共に、初級から上級試験まで各等級の最初の試験を実施し、試験監督用ビデオの撮影なども協力した。

社に感謝状を授与した。でも協力した。

も、その先の未来に生きる人々に希望を託そうという氏は、平成23年に協会理事に選出されて以来、令和4式典後に開催した記念講演では、野球評論家で元広島カープの達川光男氏が

に選出されて以来、令和4 島カープの達川光男氏が

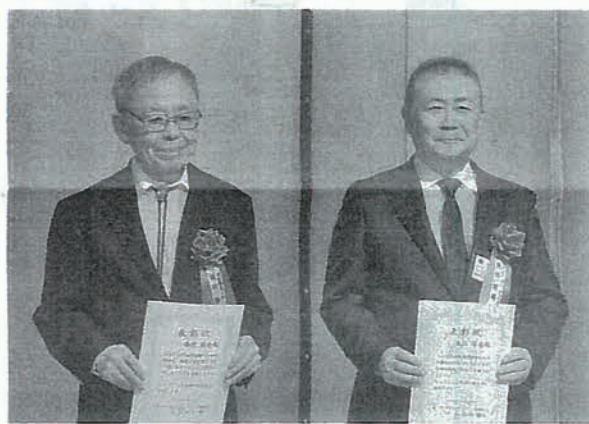
と思う。自然の力は大きい。年まで11年間にわたり理事「苦しみを笑いに変えた野
が、P・Caという林檎の木をを務め、協会発展に貢献し球人生」と題して講演。懇
生産し続けることが社会貢た。國府氏は、協会活動の親会では地元で活動する高
献につながる。我々学に携技術的助言、技術人材育成井井柴田や、広島県出身の

技術的助言、技術人材育成 井神楽団や、広島県出身の

益々の発展を祈念していき貢献した。

ing」が祝賀ムードを盛

ing」が祝賀ムードを盛り

見谷氏(右)と国府氏

小川社長（ケンチ・右）と草竹社長（草竹コンクリート工業）

供給は今や当たり前ではな
を果たしてきたことに心か
る」と述べた。

また84者を代表して、感
り上げた。